



千住金属工業株式会社

〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地  
TEL.03(3888)5151(代) FAX.03(3870)3032

[www.senju.com](http://www.senju.com)

©2022 Senju Metal Industry Co., Ltd. All rights reserved.

千住金属工業グループのCSR情報  
[www.senju.com/ja/csr/](http://www.senju.com/ja/csr/)

メールアドレス  
[web@senju.com](mailto:web@senju.com)



# SMIC CSR REPORT 2022

千住金属工業グループ CSR報告書

## 経営の理念

# 有用な製品を世に供給することで、 公器としての使命を果たす。

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。されば先ず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福 — 物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れた有用な製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実させるための必要にして且つ十分なる条件は何か — いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂……まことにこの三ヶ条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。

またこの三条の満たされる所、そこにはおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日に新たに、また日に新たなる開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康な生活の建設に邁進しようではないか。

昭和35年6月発表

故 佐藤千壽 名誉会長

社長在任期間 昭和35年 6月～昭和53年 6月  
会長在任期間 昭和53年 7月～平成20年 5月  
名誉会長在任期間 平成20年 6月～平成20年10月

# LOOK AT THE WORLD



撮影:中部事業所 瀬戸工場

## CONTENTS

経営の理念・目次・編集方針	01
トップメッセージ・マテリアリティ	03
SMICグループの目指す姿とCSR	05
私たちの生活を支えるSMICグループの製品	07

### 特集

SMICの責任ある鉱物調達	09
---------------	----

PART 1 サプライヤー特別会談

PART 2 錫のサプライチェーン

<b>環境</b>	
環境ビジョン2050による ゼロエミッション社会実現への取り組み	17
環境	18

<b>社会</b>	
お客様とともに	22
購買先様とともに	23
従業員とともに	24
社会貢献活動	28

<b>マネジメント</b>	
ガバナンス	31
新拠点紹介	36
会社概要・ネットワーク	37

## 編集方針

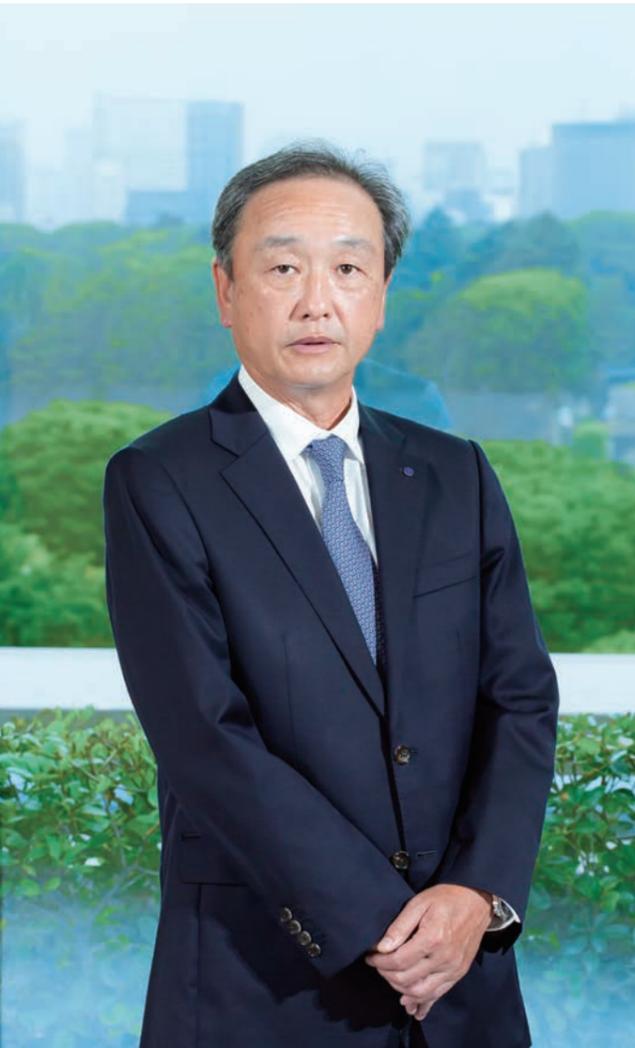
千住金属工業グループの重要課題と社会的要請の高い項目について報告するよう努め、マテリアリティを特定しています。本報告書はGRIスタンダードの要求項目に沿って制作し、事業を通じて社会問題の解決に取り組んだ結果を事例として報告します。

対象期間	2021年4月1日～2022年3月31日（一部2022年4月以降の情報も含まれます）
対象範囲	グループ会社 25社（非連結子会社と関連会社を含む。）ただし、社会貢献活動は別途明記
対象変動	連結子会社の増加・減少はなし
加入団体	RBA・日本溶接協会・エレクトロニクス実装学会・JAPIA・東京経営者協会・東京商工会議所・真岡商工会議所
発行履歴	今回：2022年10月（前回：2021年10月）
次回発行予定	2023年 4月
参考ガイドライン	GRIスタンダード・環境報告ガイドライン・ISO26000

※GRIスタンダード対照表は弊社Webサイトに掲載予定です。

## 免責事項

本報告書には、千住金属工業の将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれていますが、これらの記述は、現時点で把握可能な情報から判断した事項および所信に基づく見込みです。千住金属工業およびその関連会社は、本報告書に含まれる情報もしくは内容を利用することで、直接・間接的に生じた損失に関し、いかなる責任も負わないことをご了承ください。また、本報告書は、参考のために日本語の原文を英語および中国語に訳した報告書も用意しております。日本語版と英語版・中国語版に相違がある場合は、日本語版を正しいとみなし、翻訳による誤解から生じたいかなる損害についても責任を負わないことをご了承ください。



Resilience

いかなる状況でも、  
しなやかに誠実に  
乗り越える

代表取締役社長

鈴木 重典

当社のマテリアリティ

ESG	マテリアリティ	重点テーマ	SDGs
E	気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業活動における省エネルギー化および再生可能エネルギーの使用</li> <li>●お客様のカーボンニュートラルを実現する環境配慮型製品の開発</li> <li>●副資材における再生可能資源の使用</li> </ul>	7, 8, 9, 13, 17
	資源循環への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●使用済みになった自社はんだ製品の回収およびリサイクルの推進</li> <li>●製造過程におけるはんだ材料のリユース</li> </ul>	9, 12, 17
S	CSR調達 (責任ある鉱物調達) の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●紛争やテロリズム、児童労働などの人権侵害に加担する個人や団体との取引の禁止</li> <li>●RMIの基準に則った鉱物の使用</li> </ul>	8, 16, 17
	人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新しい知識の修得に努め、広い視野を持って合理的な判断ができる人材の育成</li> </ul>	4, 17
	働きやすい 職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダイバーシティ&amp;インクルージョン (多様なライフスタイル・人材に対応した働きやすい職場環境づくり)</li> <li>●人権の尊重(グローバルビジネスを展開するなかであらゆる文化・宗教への理解)</li> <li>●社内におけるDXの強化</li> <li>●労働安全衛生</li> </ul>	5, 8, 10, 17
	Society5.0、DXの 実現に向けた貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>●5G やIoT、自動運転などを実現する、高信頼性製品の開発</li> <li>●顧客の先進技術への伴走、パートナーシップ、共創の強化</li> </ul>	8, 9, 17
G	安定供給の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大規模な感染症の拡大や、地震や台風などの自然災害への対策強化</li> <li>●BCP(事業継続計画)体制の強化</li> <li>●複数社購買体制の強化</li> <li>●製造工場における自動化、IoT化</li> </ul>	
	知的財産、 個人情報管理などの リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特許侵害や技術流出などの知的財産リスクへの対策強化</li> <li>●情報セキュリティ対策の強化</li> <li>●自社、顧客、取引先の個人情報の保護</li> </ul>	

自社の体制とサプライチェーンの  
強化を図り、しなやかに乗り越える

千住金属工業グループの2022年度CSRレポートをお届けいたします。

昨今、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的な流行や国家間での戦争など、未曾有の出来事が社会経済へ大きな影響を及ぼしています。千住金属工業グループは、このような状況下においても柔軟に、かつ弊社の経営理念「実力・誠実・闘魂」の誠実(人間としての良心、正しい心を持つこと)をもって乗り越えていくということで、今年度のCSRレポートのテーマを「Resilience ーいかなる状況でも、しなやかに誠実に乗り越えるー」としました。

いかなる状況でもしなやかに誠実に乗り越えるため、千住金属工業グループは自社の体制とサプライチェーンの強

化を図ります。

自社の体制強化としましては、COVID-19などの感染症や、地震や台風などの自然災害が発生しても事業活動を継続できるよう、製造・営業・研究開発・管理の各部門におけるオフィス分散やフレックスタイム、テレワークを活用し、BCP(事業継続計画)体制を推し進めます。

サプライチェーンの強化としましては、複数購買による柔軟な調達体制と、サプライヤーからの供給が困難となった際にも自社内で対応ができる体制の確立により、サプライチェーンの面からのBCPも推し進めます。また、責任ある鉱物調達のためRMI(Responsible Minerals Initiative)に準拠したサプライヤーからの調達を引き続き行うとともに、鉱物に限らないすべての主資材・副資材の調達においても責任ある調達に取り組めます。

千住金属工業グループにとっての  
マテリアリティ

近年、持続可能な社会を実現するためには、SDGs(持続可能な開発目標)やESG(環境・社会・ガバナンス)の観点での事業活動が重要となっており、ステークホルダーの皆様からも期待や要望が寄せられています。そこで本年より、千住金属工業グループにとってのリスクと機会を把握し、重要課題(マテリアリティ)を特定しました。

千住金属工業グループのマテリアリティの中で特に重要なものとして挙げられるのは、まず、新技術と新材料による持続可能な社会を実現する新製品の開発です。既にカーボンニュートラルを実現する低温はんだや、Society5.0を実現する高信頼性はんだを開発していますが、この先の未来、次世代にバトンをつなぎ、持続可能な社会を実現する

ためには、新技術と新材料による新製品の開発が不可欠と考えています。そのためには、サプライヤーやお客様との先進技術への伴走、パートナーシップ、共創の強化が重要と考えています。

次に、企業としての倫理観の向上です。ステークホルダーであるサプライヤー、従業員、地域社会、地球環境、お客様に対して、常に誠実であり続けること。そのためにはステークホルダーとコミュニケーションをとり、そこで得られたご意見や評価などをもとに課題を把握し、事業活動に反映することが重要と考えています。

千住金属工業グループは、ステークホルダーの皆様からのニーズに応え、持続可能な社会を実現するための事業活動に今後も取り組んでまいります。今後とも、一層のご支援とご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

## SMICグループの目指す姿とCSR

# より良い社会の実現に貢献

千住金属工業グループは経営の理念をもとに、ステークホルダーと常に誠実な関係を維持し、持続可能な環境・社会・ガバナンスを実現する優良企業を目指したCSR活動・企業活動を展開しています。重要課題は、RBA (Responsible Business Alliance) の行動規範に規定されている5つの側面およびGRI (Global Reporting Initiative) が推奨するステップ・フローに沿って特定し、優先して取り組むべき事象を整理しています。

### 社会全体の発展

#### 📍 地域社会

- 事業所での事故・災害防止と周辺地域の復興支援
- 地域の文化・慣習の尊重と地域社会への貢献活動
- BCPの確立

#### 👤 お客様

- 安心・安全・安定した製品・サービスの提供
- 環境配慮型製品・サービスと情報の適切な提供
- 知的財産権の保護
- 高信頼性製品の推進

#### 🏢 調達先

- 調達取引先の公平な選定と取引
- 企業価値の維持と社会的責任投資への対応
- 責任ある鉱物調達

## 環境ビジョン 2050

## 経営戦略 マテリアリティ

## 持続可能な環境・ 社会・ガバナンス の実現

### SMICの事業に係る SDGs重点項目

千住金属工業グループでは、SDGsの実現に貢献できるよう、社会インフラの基盤となる製品・サービスに金属を提供する企業として、事業活動と特に関わりの深い以下の6つのSDGs目標を重点項目として位置づけています。



### step 1 重要な課題・事象の特定

- GRI項目の側面や重要なRBA自主監査項目
- 影響を及ぼす範囲の特定

### step 2 優先づけ

- ステークホルダーと会社における重要性評価
- 月次CSR会議での定性的・定量的な評価
- ESG経営戦略の立案

### step 3 確認

- GRI項目の側面の範囲・影響・期間の評価
- 経営陣による承認と開示

### step 4 見直し

- 印刷物等での配布および開示 (日本語版・英語版・中国語版)
- 月次CSR会議にて意見を分析・報告し次回に活用

# SMIC

事業 × 強み  
材料から工法まで



はんだ

はんだ付け装置



すべり軸受



## 経営の理念

# 私たちの生活を支えるSMICグループの製品

SMICグループの製品は、電子機器・モビリティなどの身近な製品から、風力発電機や基地局・鉄塔などの公共設備、そして人工衛星にいたるまで、あらゆるところで使われ、私たちの暮らしを支えています。これからもSMICグループは、トータルソリューションで接合の未来を切り開き、社会に貢献していきます。

## ● はんだ付け装置

プリント基板と電子部品のはんだ付け実装工程に、千住金属工業のはんだ付け装置が使われています。



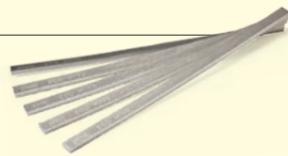
## ● 材料分析調査

各種材料・製品中に含まれる有害物質の分析調査を、産業分析センターが行っています。



## ● 棒はんだ

はんだ付け装置での基板実装に、千住金属工業の棒はんだが使われています。



## ● ボールはんだ、ペーストはんだ

スマートフォンやパソコンなどの電子機器や家電製品、太陽光パネルやLEDライト、風力発電機などに、千住金属工業のボールはんだ、ペーストはんだが使われています。



## ● すべり軸受

自動車などのショックアブソーバーや建設機械の足回りに、千住金属工業のすべり軸受が使われています。



## ● 環境分析調査

水・大気・土壌に含まれる汚染物質の分析調査を、産業分析センターが行っています。



## ● プリフォームはんだ

自動車の車載装置に、千住金属工業のプリフォームはんだが使われています。



## ● スプリンクラー

世界中の住宅・ビル・地下駐車場・公共施設などの消防設備に、千住スプリンクラーの消防用スプリンクラーが使われています。



## ● 特殊合金

水道铸铁管の防腐表面処理に、千住金属工業の「亜鉛-スズ-マグネシウム合金」が使われています。



# SMICの責任ある鉱物調達

数年来の金属価格高騰や紛争、国家間の貿易摩擦などの不安材料とともに、Society5.0の実現に向けた電子部品需要の高まりなど、金属を加工するメーカーとして材料の安定的調達の重要性を痛感させられています。そこで、今年CSRレポートのテーマを「Resilience ーいかなる状況でも、しなやかに誠実に乗り越えるー」とし、特集として鉱物調達に焦点を当てました。

## PART 1 サプライヤー特別会談

SMICグループでは世界中から原材料となる鉱物を調達し、製品を製造しています。原材料に問題がなく、製品が公正であるためには鉱物を採取する現場から私たちの手に届くまで、サプライヤーの皆様とともに取り組みを進めることが不可欠です。今回は、当社のサプライヤーであるペルーのMinsur様（錫製錬所）、豊田通商株式会社様（商社）と責任ある調達・供給について会談を行いました。



### 対談参加者

#### Minsur社

Corporate Affairs Director  
**Gonzalo Quijandria**様 (画面右下)

Sales Manager  
**Pio Davila**様 (画面左)

#### 豊田通商(株)

金属本部 非鉄事業部長  
**五藤 晃雄**様 (画面右上)

#### 千住金属工業(株)

取締役 執行役員  
栃木事業所長 製造部門長  
**奥野 哲也** (写真左端)

購買部 副統轄部長  
**藤原 信一** (写真右端)

## ビジネスのはじまりは

**SMIC・藤原**：私は購買部に異動してから約12年経ちますが、この仕事に携わって分かったことは、SMICにとって重要な材料である錫は、非常にリスクが内在している材料であるということです。

**豊田通商(株)・五藤氏(以下、敬称略)**：SMICの主原材料である錫はグローバルに偏在している資源のため、常に「いかに安定的に調達するか」というのが大きな事業課題です。2000年以降、中国の低鉛錫の需要がさらに拡大していく中、供給の安定性を確保するため、何度もSMICとご相談し、何ができるのか検討していました。

**藤原**：当時はちょうどコンフリクトミネラルの問題が顕在化し始めたこともあり、それまでの東南アジアからの調達のみでは、この先のリスクが高いと考え、錫の一大産出地域である南米から地金を調達できないかと検討を始めたのが出発点です。

**SMIC・奥野**：その頃、私はアメリカに駐在していて、2010年に当時の購買部長とともに、調査と視察のため南米地域にある複数の錫製錬所を訪問しました。その際、ペルーにあるMinsurさんにもコンフリクトミネラルについてお話を伺うため訪問したのがお付き合いの始まりです。

**藤原**：その後、あらゆる観点から見ても、南米品は調達に値するとの判断から、当時、豊田通商さんを含めた複数の商社に、Minsur社品の買い付け依頼をしました。当社の意向を理解して下さった豊田通商さんがペルーのリマへ赴き、Minsurさんとの交渉を取りつけてくれたことがビジネスの始まりになります。スポットでの購入から始まり、2013年10月にLME Week\*1開催中のロンドンにおいて、Minsur社のJuan Luis Kruger (クルーガー) CEOと直接お会いし、正式な長期契約を締結しました。最初の購入から現在まで、10年以上にわたり供給していただいています。

\*1 LME Week: LME (London Metal Exchange、ロンドン金属取引所) が主催する年次業界会合



Minsur社 訪問時

## SMICメンバー ペルー訪問時のエピソード

Minsurさんのビスコ製錬所に訪問した際の印象としては、セキュリティへの配慮と訪問者への安全対策が行き届いており、とても感心しました。Minsurさんのメンバーはとてもフランクで親しみやすく、ミーティングでは予定時間を大幅にオーバーするほど会話が盛り上がったことも多々ありました。ペルーでは日本と同じく魚を日常的に食べる習慣があり、その点でも近い感覚を持たれたことと、ビスコサワーという強いお酒にちょっと戸惑ったこと、黄金色をしたインカコーラがおいしかったことも思い出です。(SMIC 藤原 談)



ビスコサワー



ペルーの魚料理「セビーチェ」

## 「良い関係を築く」上で大切なこと

**五藤**：豊田通商は「現地・現物・現実」を行動原則としています。また、企業間のリレーションシップという観点のみならず、私自身は、お互いに「社会的責任を果たす誠実さを有していること」「社会的課題やニーズに対し、中長期の視点で真摯に取り組んでいること」のこれらを有し、Win-Winの関係を構築することを大切にしています。

**藤原**：担当者個人で言いますと、「お互いを理解しようとする」のはもちろん、相手をリスペクトしながら接することが大事だと思います。Minsurさんと長期契約をした2013年以降、我々はMinsurさんへ2度訪問、Minsurさんは当社に3度来社されています。ペルーと日本という立地的な距離の遠さから見ても、Face to Faceで直接やり取りできた時間が多く、その分お互いの理解が深まったと感じます。交渉事において豊田通商さんとMinsurさんは、些細なことでも約束は守り、お互いの主張は忌憚なくぶつけ合い、最適解を見出そうとする姿勢を感じています。私としては、とても信頼できて長期的に良い関係が構築されると認識しています。また、Minsurさんには、ISO用語について、何も説明をしなく

でも通じる点で、会社としてインテリジェンスとしっかりしたガバナンスが構築されていることがうかがい知れます。

**五藤**：豊田通商としても、まさに錫を通してより良い世界を目指すパートナーだと感じています。

**藤原**：同じ船に乗って厳しいビジネス環境に立ち向かっていることが日常のやり取りで感じ取れ、とても心強いですね。

**Minsur社・Pio氏（以下、敬称略）**：実は2013年以前のMinsurの供給先は、ヨーロッパと米国市場のみで、それをエージェントに外注しており、長い間、他の地域とは取引がありませんでした。また、ビジネスもエージェント任せだったので、当社の製品がどのように使われているのかよく把握していませんでした。2013年にクルーガーがCEOに着任してからビジネスを強化し、世界の他の地域とも取引を始めるようになりました。日本では、豊田通商さんからSMICを紹介してもらったことが始まりで、それ以降大事な顧客として強固な関係を築いてきました。実際にSMICの栃木事業所を見学した際は、工場内が整理整頓され、ルールに則り業務を遂行していることに非常に感銘を受け、勉強になりました。信頼関係を築くには時間を要します。お互いに直接会うことで価値を共有し、良い関係を築くことができると感じています。そのため、私たちにとって



Minsur社 ご来社時

顧客がどのように製造をして、どのようなものを生産しているのかを知ることはとても重要なことなのです。



Minsur社 Pio 様

## 私たちが果たすべき社会的責任

### 地球温暖化対策

**Minsur社・Gonzalo氏（以下、敬称略）**：MinsurではICMM<sup>※2</sup>の他のメンバー企業とともに、2050年までに温室効果ガス排出量（スコープ1および2）を実質ゼロにするとコミットしています。2030年に向けたロードマップを作成し、クリーンな車両の導入や採掘全体での環境効率の向上に取り組んでいます。また、再生可能エネルギーへの転換に焦点を当てたプログラムに取り組んでおり、代替エネルギーとして太陽エネルギー、水素ガス、風力エネルギーの研究を開始しています。

※2 ICMM：International Council on Mining and Metals、国際金属・鉱業評議会。鉱業・金属産業界を安全で公平かつ持続可能なものにするために設立された国際機関。

**五藤**：豊田通商グループは2021年から、カーボンニュートラル推進を最優先で取り組む活動をしています。2022年4月には、カーボンニュートラル推進部を設立し、脱炭素への取り組みを加速させています。カーボンニュートラルにおい

では、2030年までのロードマップを策定し、①再生可能エネルギー・エネルギーマネジメント、②バッテリー、③水素・代替燃料、④資源循環・3R、⑤Economy of Life（エコノミー・オブ・ライフ）の5つの領域にてワーキンググループを組織しています。特にSMICとの取引窓口である金属本部では、クリーンエネルギーや革新的技術を活用し、自動車の電動化や工場・プラントにおけるCO<sub>2</sub>排出量を削減することで、脱炭素社会移行に貢献し、また廃棄物を資源化することで、モノづくりを支え、循環型社会に貢献しています。

**奥野**：SMICも2年前に「環境ビジョン2050」を策定し、低炭素社会の実現に向け、全社でスコープ1および2におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。また2021年より、関係グループ会社を含めた各事業所でのクリーンエネルギー、再生可能エネルギー使用の検討を開始し、カーボンニュートラルに向けた取り組みを促進させています。

また、はんだという製品は、実装するにあたり多くの電力を使用する材料ですので、従来よりも融点が80℃低い温度で実装可能な「低温はんだ」の商品化に成功しました。これにより、はんだ付けを行う現場での消費電力削減が飛躍的に促進されると期待しています。

**藤原**：購買部門としては、調達品の由来をよく吟味し、カーボンニュートラルの考えに即した物品の調達に尽力しています。具体的には、購買部門としてはスコープ3（事業者の活動に関連する他社の排出）に関係しますので、2021年より調達品のCO<sub>2</sub>排出量の現状把握を行いました。その上で同じ部材や材料の中からCO<sub>2</sub>排出量の少ない物を探し、使用可能かどうかを確認しています。例えば、SMICで使用するのはんだ容器やスプーンにバイオマス樹脂由来のプラスチック材料が使えるかどうか検証しています。また、軸受製品で使われている鋼材を、従来の高炉材よりもCO<sub>2</sub>排出量の少ない電炉材に切り替えることが可能かどうかの検討もしています。

### 責任ある鉱物供給・調達

**Gonzalo**：Minsurでは、原材料を提供するにあたり、鉱山とそこで行われているオペレーションのすべてに社会的責任があると認識しています。製錬所として持続可能な社会を実現するために、責任のある鉱物供給方針とデューデリ

ジェンス・プロセスを実行しています。我々は自社の鉱山からの鉱石のみを精錬し、2つある製錬所（ペルーのピスコ、ブラジルのピラポラ）に対して責任を持って供給をしています。また、2つの製錬所はRMI<sup>※3</sup>が実施するRMAP<sup>※4</sup>による第三者監査を定期的に受けて認証を取得しています。

※3 RMI：Responsible Minerals Initiative、責任ある鉱物イニシアチブ  
※4 RMAP：Responsible Minerals Assurance Process、責任ある鉱物保証プロセス

**奥野**：SMICは2011年にEICC（現在のRBA）に加盟して以降、2014年からはRMI会員としても製錬所に対しRMAPへの参加と第三者認証取得を積極的に働きかけてきました。2015年には取引先の全製錬所がRMAP認定されたことを報告しました。



千住金属工業(株) 奥野

**藤原**：現在までRMIからの認定製錬所リストを確認し、関係部署と協力してコンフリクトフリーで安全な材料を調達しています。また、調達先の製錬所には監査漏れなどがないように折に触れてアナウンスを行い、安全を担保しています。

**Gonzalo**：Minsurではサステナブル方針と人権方針を定め、すべての製錬所とサプライチェーンにそれらを適用しています。2021年には、世界最大のサステナビリティ・イニシアチブである国連グローバル・コンパクトに署名し、人権保護、労働の権利、環境への対応、腐敗防止などに関わる10の原則への取り組みを強化しました。また、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」およびOECDの「責任ある企業行動のためのOECDデュー・デリジェンス・ガイダンス」に沿って人権を保護しています。2021年から2022年にかけて、ペルーとブラジルのすべての当社事業で人権評価を実施しました。

**五藤**：豊田通商では、グローバルに多様なバリューチェーンを構築しており、それぞれの地域において、サプライチャー

### Minsur社 来日時の思い出

SMICの栃木事業所に訪問した際は、きちんと整理されている清潔で高度な技術を持つ工場である印象でした。日本にはとても豊かな文化があり、時間の厳守や規律、勤勉さを重んじる価値観と、思いやりや礼儀正しさ、相手を尊敬する姿勢を感じました。

世界で最も人通りの多い横断歩道として有名な、東京の渋谷スクランブル交差点は印象的でした。また、日本料理では、寿司がとても豊富な種類があり、おいしかったです。街中で着物を着た人々を見かけることができ、とてもうれしかったことも思い出です。（Minsur社 談）



COLUMN

ン全体がサステナブルであるために、人権、労働環境、自然環境に配慮したサステナビリティ・CSRを推進していくことが必要であると考えています。これらに取り組むにあたり、「サプライチェーン・サステナビリティ行動指針」を定め、サプライチェーンの皆様からご理解、ご賛同をいただき、互いに実践することにより、持続可能な社会の構築に貢献していく活動を推進しています。

SMICとお取引している錫に関しても、鉱物を供給・調達する者としての責任を果たすべく、RMIの紛争鉱物に係る調査にサプライチェーンの一員として毎年参加しています。

**奥野:** 責任ある鉱物供給という点から、ステークホルダーの一人として質問させていただきます。

鉱山での採掘は肉体的にも大変な部分もあると思いますが、実際に訪問した際にMinsurさんでさまざまな取り組みをされていると感じました。労働安全に対するお考えや取り組みについてお聞かせください。

**Gonzalo:** Minsurでは従業員、請負業者、およびコミュニティの健康と安全を保護するために、MINSEGURというシステムを用いて管理しています。また、ペルーのすべての事業において、労働安全衛生マネジメントシステムに関する国際規格ISO45001の認証を取得しています。MINSEGURに基づき、危機管理や文化、健康、ウェルネスに取り組み、2021年には100万労働時間あたり1.50という、鉱業部門の歴史の中で最も低い記録可能な傷害頻度率(RIFR)を報告しました。これは2022年も引き続きICMMのメンバー企業の中でもTOP5の低さを保つ成績で推移しています。

また、労働環境の改善や安全性向上のためにさまざまなことに取り組んでいます。例えば、陸上輸送を航空輸送に切り替えることにより労働時間の短縮を行い、従業員が家族と過ごす時間や余暇を増やすことができるようになるなど、人に焦点を当てた取り組みをしています。



Minsur社  
Gonzalo 様

**五藤:** 豊田通商では、「グループ安全衛生方針」に基づき活動しています。グループ内で発生した労働災害は、「豊田通商グループ労働災害報告基準」に従い遅滞なく報告されており、災害発生の真因分析と再発防止対策が全ての部署に展開され、類似災害発生の未然防止に役立てられています。



豊田通商㈱  
五藤 様

## VUCA<sup>※5</sup>時代を乗り越えるために

**奥野:** SMICは材料メーカーですので、何があっても顧客の生産に支障をきたさないように、供給責任を果たすことが使命であり、原材料調達は極めて重要だと感じています。2020年初めより、想定外の事象が毎月のように起こっています。

**藤原:** COVID-19やロシア・ウクライナ危機の勃発と長期泥沼化など、地球上のどこかで何か起こると、ロジスティクス(物流・輸送)が寸断される危機が起こり、物があっても運搬できない事態が実際に発生しています。貿易摩擦という観点では、該当国への製品の販売に関して、特定国の原産品の使用を避ける、または禁止するなどということが多々あり、製品の製造に関して制約が加わることがあります。私たちはどんなことが起こっても生産を止めないようにつながなければいけないので、常に神経をとがらせて調達している状況です。

**五藤:** 藤原さんのご説明の通り、VUCA時代に突入している中、豊田通商の各営業本部では世界中のネットワークを駆使して情報のアップデートと共有を行い、お客様へ最適な調達のご提案をすべく、日々邁進しています。

※5 VUCA: Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)の頭文字を取った言葉

**Gonzalo:** COVID-19をきっかけとして、Minsurは働き方を再考し、人々の健康と福祉を優先するために100万米ドルの投資を行い、変革することを余儀なくされました。ただし、この変革はゼロから始まったわけではなく、パンデミックに対処するためのそれ相応の知識を既に持っていたことが大きかったように思います。過去7年間、安全文化に非常に熱心に取り組んできたからこそ、対応することができたと思っています。

**藤原:** 資源の枯渇ということと言えますと、鉱物資源に留まらず、あらゆるものが有限のものであるということをよく理解し、常にリサイクル・リユースを念頭において生産・製造を行うことが重要だと思います。SMICもこの観点でリサイクル品を積極的に用いて、地球環境を保護するという時代の要請に応えられるようにしています。



千住金属工業㈱  
藤原

**五藤:** 豊田通商では、特に鉱物価格のボラティリティ拡大や資源枯渇リスクなどが叫ばれている商材(リチウム、レアアースなど)に関しましては、事業投資や運営、リサイクルについても、モノづくり商社として積極的に展開していきたいと考えています。

## Minsur



1966年設立。主に錫と金の採掘、製錬および製錬を行うペルーの鉱業会社。ペルーのリマに本社を置き、プーノ県のメルガル州アンタウタ地区に世界の錫の12%を生産しているSan Rafael採掘施設、タクナ県のバルカに金の採掘鉱山であるPucamarca採掘施設、イカ県のピスコ地区に錫製錬所があります。

「持続可能な方法で鉱物資源を変換することにより価値を創造する」をMinsurの果たすべき使命とし、ヨーロッパ、南アメリカ、米国、カナダなど世界中に金属材料を供給しています。

**藤原:** 2021年は北米大陸で寒波があり、数多くのメーカーが操業停止になりました。自然災害は誰にも止められないため、どのように対応するかを十分に策定する必要があります。ある一つの原材料に対して、複数の供給元を用意することに加え、サプライヤーの生産拠点が複数あるかどうかをチェックしています。BCPの確立は、企業としては避けて通れないマスト事項ですが、調達する立場としてその辺りも重要視しています。その点、Minsurさんは二つの鉱山と製錬所をお持ちですので、我々も安心してます。

**五藤:** 豊田通商でもコンプライアンスや危機管理においては、外部とも提携しながら、世界のどこで何が起きているかを常にモニタリング・発信できるように、本部を超えた連携体制がとれる準備をしています。

さらに企業のレジリエンスを上げるべく、人づくりやDXへの対応を一つの重点実施施策として、教育を含めた社内インフラ整備と業務の見直しをお客様ならびにサプライヤー様と続け、常に改善活動を進めていきたいと考えています。

**奥野:** さまざまなお話を聞かせていただき、未曾有の事態を「しなやかに乗り越えられる」のは、Minsurさんも豊田通商さんも事が起こる前から、いろいろと準備されている土台があるからということが分かりました。それがまさに企業として「誠実に日々課題と向き合う」「誠実に物事を見通す」ということかと思っています。あらためて、国や文化を超えてアイデンティティを共有できるビジネスパートナーとタッグを組めることに感謝をしています。これからもお互い協力して、誠実にしなやかに物事に向き合える関係でいたいと思います。本日はありがとうございました。

一同: ありがとうございました。

## 豊田通商株式会社



豊田通商は1948年にトヨタグループの商社として設立。完成車輸出や自動車生産支援を軸に事業を拡大。7つの営業本部(金属、グローバル部品・ロジスティクス、自動車、機械・エネルギー・プラントプロジェクト、化学品・エレクトロニクス、食料・生活産業、アフリカ)を有し、未来における利便性の高い社会(Mobility事業)、持続可能な社会(Resources & Environment事業)、快適ですこやかな社会(Life & Community事業)の3つの事業領域において豊かな社会づくりに貢献すべく世界約130カ国で、グループ社員約65,000名が事業に従事しています。

当社の製品は原料採掘、製錬、輸送など世界中のさまざまな工程を経て、製造されています。  
PART1で会談を実施した、Minsur様（製錬業者）、豊田通商株式会社様（商社）、SMICグループの  
3つのサプライチェーンとして、なかなか目にする機会がない南米ペルーの錫鉱山の様子と、  
製錬された鉱物がどのように輸送され、当社倉庫にたどり着くのかをご紹介します。

**PART 2** 錫のサプライチェーン

**採掘**



鉱山で鉱石の採掘



鉱山の様子




Minsur社では、南米大陸中央に位置する山々に  
囲まれた大自然の中に鉱山を持ち、錫採掘を行っ  
ています。

写真：Minsur社提供

製錬業者

**製錬**



錫石から金属を取り出す



**精錬**



金属から不純物を取り除く

選鉱工場と製錬工場の様子



鉱山にて採掘された錫は、自社製錬所に持ち込まれ、  
金属から不純物を取り除く精錬がなされ、錫地金とし  
て世界中に出荷されています。



写真：Minsur社提供

**加工 製品化**





生産計画に基づいて自動倉庫から出され  
た錫地金は、他の金属との配合レシピに  
従い、他の金属地金とともに溶解炉に送  
られはんだ合金として形成され、その後さ  
まざまな形状のはんだに加工されます。

SMIC

**納品・搬入**






SMICの栃木事業所に  
港からトラックによって  
搬送された錫地金は、  
入荷検査後専用の自動  
倉庫にいったん保管さ  
れます。

商社

**物流**



出荷、船積み、Shipping



南米ペルーの港から日本  
に向けて錫地金が船荷と  
して輸送されます。

# 環境ビジョン2050による ゼロエミッション社会実現 への取り組み

千住金属工業グループは、地球温暖化・酸性雨・土壌汚染、水質汚濁などの地球環境問題に取り組むことが、人類の生存基盤に深く関わる重要な課題であり、人類共通の使命であることを認識しています。事業活動を通じたゼロエミッション社会の実現に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献します。

## 環境ビジョン2050

3つの社会の実現を目指して

### 1 低炭素社会の実現

温室効果ガスゼロ社会への挑戦

企業活動における省エネルギー化の推進

### 2 循環型社会の実現

資源循環による地球資源の保護

### 3 自然共生社会の実現

生物多様性の保全と、環境リスクのある有害な化学物質使用ゼロ社会への挑戦

## 第二次環境プラン

(2020年度～2030年度)

### カーボンニュートラルに向けた取り組み

2013年度のCO<sub>2</sub>排出量(17,328t-CO<sub>2</sub>)の25%分を2030年度までに削減

### 製品リサイクル推進

3R※材料を100%使用した製品の開発

### 有害性化学物質の使用量ゼロ

人体と環境に影響を及ぼす化学物質の使用量ゼロ

### 生物多様性の保全

環境保護活動による生物多様性の保全

※3R=Reduce(発生抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)



環境

## 環境方針

### 環境理念

千住金属工業グループは、地球環境保全が人類共通の使命であると認識しています。この使命のもと、持続可能な社会の実現に向けて、地球環境と事業活動との調和を図り、豊かな自然と多様な生態系を守ることに全力を尽くします。

## 環境管理体制

千住金属工業グループでは、地球環境への負荷を軽減するために必要な措置を講ずる組織として環境委員会を設け、公害防止や環境保全に関する計画の策定、計画実施についての審議などを毎月行っています。また、経営会議で毎年環境のリスクと機会を特定し、それに基づいた環境活動方針を定めています。

## 環境マネジメントシステム

千住金属工業グループでは、環境活動の指針となる環境理念と環境方針を定めています。国内海外の計17拠点でISO14001を取得し、それに基づく環境マネジメントシステムの構築およびPDCAサイクルを回しています。

また、環境に関する重点テーマ4項目(温室効果ガス削減、廃棄物削減、有害性化学物質の削減、自然保護活動)について、国内海外の各拠点・各部署が毎年目標と行動計画を定め、環境負荷低減に向けた活動を推進しています。

## 環境リスク

千住金属工業グループでは、気候変動問題や廃棄物による汚染などさまざまな環境リスクを把握し、環境事故・汚染事故の未然防止のために厳しい自主管理基準を定め、対策を行い運用しています。また、緊急事態が発生した場合に備え、被害を最小化するために緊急事態対応訓練を年1回行っています。

2021年度は環境事故・汚染事故は発生していません。今後も環境事故防止対策を継続していきます。

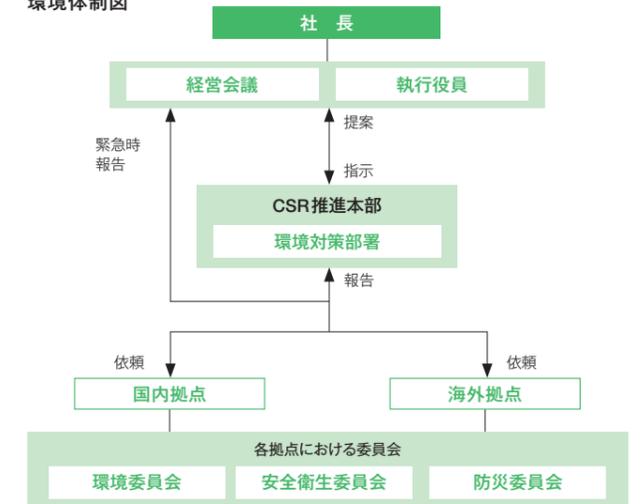
## 環境教育

従業員の環境への意識向上と環境マネジメントシステムの維持向上のために、環境一般教育(年1回)、ISO14001教育(随時)、廃棄物管理教育(随時)、緊急事態対応教育(緊急事態対応訓練時)などの環境教育を実施しています。

## 環境監査

環境関係の測定や届出が確実に実施され問題がなかったか、法令で必要な対応が十分取られているかを確認する環境法令遵守評価を年2回、ISO14001の有効性を確認する内部監査を年1回、遵守評価者や関係部署長が実施しています。

## 環境体制図



## 環境負荷マテリアルバランス

INPUT		OUTPUT	
原材料	14,735 t	温室効果ガス (国内全拠点)	17,482 t-CO <sub>2</sub>
給水量	459,955 m <sup>3</sup>	スコープ1	3,357 t-CO <sub>2</sub>
エネルギー		スコープ2	14,125 t-CO <sub>2</sub>
電力量	38,404 MWh	排水量	455,355 m <sup>3</sup>
都市ガス	1,334 km <sup>3</sup>	BOD	3 t
LPG	16 t	COD	3 t
A重油	16 kl	化学物質 ※PRTR届出対象	15.2 t
灯油	18 kl	最終廃棄物 処分量	1.2 t
ガソリン	76 kl	再資源化量	1,126 t
軽油	27 kl		
化学物質 ※PRTR届出対象	793.6 t		

国内全拠点の大半を占める栃木事業所のインプット・アウトプット



## 温室効果ガス削減

### 基本的な考え方

千住金属工業グループでは、地球温暖化の防止・緩和のために、事業活動に伴う環境負荷を定量的に監視・計測することで、エネルギー使用量と温室効果ガス排出量を把握し、省エネルギー化およびCO<sub>2</sub>排出量削減活動を推進しています。

## 温室効果ガス排出量の削減(スコープ1、スコープ2)

千住金属工業グループでは、製造工場における作業効率の改善や空調機・変圧器などの機器の更新、オフィス・製造工場における照明のLED化など、省エネルギー化のための活動を推進しており、温室効果ガス排出量の削減に努めています。2021年度は、291.82t-CO<sub>2</sub>の温室効果ガスを削減しました。

COVID-19が世界的に拡大していった2019-2020年度に比べ、2021年度は製造量が戻ったことと、栃木事業所鬼怒ヶ丘工場と関西事業所西脇工場の増築および設備増設のため、エネルギー使用量は7,046klと増加したものの、売上高が飛躍的に伸びたため、原単位としては減少しました。

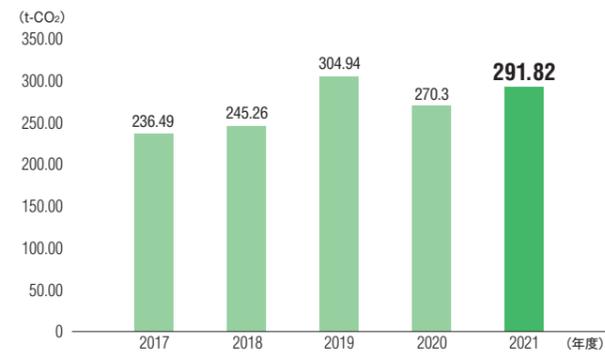
改善内容(栃木事業所)	年間電力削減予測効果(kWh/年)
コンプレッサーの更新	22,057
軸受焼結炉への遮熱塗料の塗布	47,199
照明LED化	59,431
空調の更新	38,884
プロアモーターコンデンサの設置	27,909

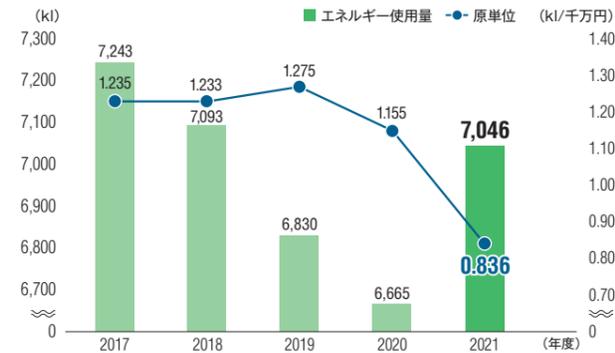
改善内容(栃木事業所)	年間削減ガス量(mi/年)
ガス炊きボイラー運転の見直し	11,477

※2021年度数値

## 国内拠点 温室効果ガス削減活動実績

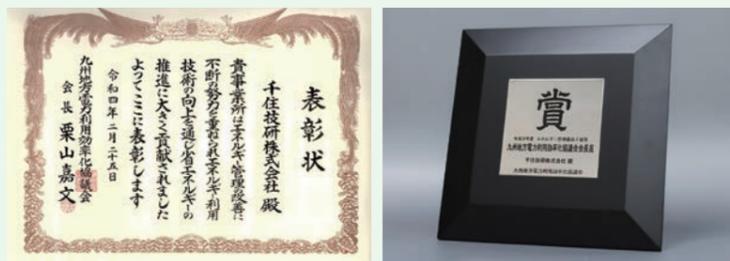


## 国内拠点 エネルギー使用量と売上高原単位



## 千住技研が「九州地方電力利用効率化協議会会長賞」を受賞

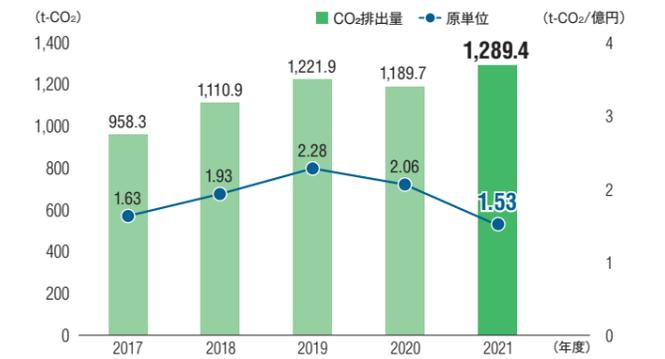
2022年2月、千住技研はエネルギー使用合理化に積極的な工場として、「九州地方電力利用効率化協議会会長賞」を受賞しました。同社では、終業後の空調機運転停止・屋外灯のLED灯への更新・排熱量に応じたファンの稼働調整等、電力量の削減に日頃から取り組んでおり、年間約15~18klの省エネ効果を実現したことが評価されました。



## ■ スコープ3排出量

千住金属工業グループでは、国内の貨物の年間委託輸送量を製品の 카테고리 別に輸送区間と距離から算出し、CDP (Carbon Disclosure Project) のスコープ3で要求されている項目のモニタリングを行い、報告しています。2021年度のCDPのスコープ3の排出量は、COVID-19が世界的に拡大していった2019-2020年度に比べ製造量が戻ったことと、栃木事業所鬼怒ヶ丘工場と関西事業所西脇工場の増築および設備増設のため、1,289.4t-CO<sub>2</sub>と前年度よりも増加したものの、売上高が飛躍的に伸びたため、原単位としては減少しました。また、従業員の通勤に関するCO<sub>2</sub>排出量についてもモニタリングを行っています。製品配送に使うトラック便を集約し、輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減を図っています。

## 国内拠点 CO<sub>2</sub>排出量と売上高原単位



## 廃棄物削減・リサイクル

### 基本的な考え方

千住金属工業グループでは、3R(廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化)の考え方を基本に廃棄物削減・リサイクル活動を推進しています。

## ■ SMICグループのはんだリサイクルシステム

千住金属工業グループでは、約40年前から関連会社である株式会社高橋合金と連携し、はんだリサイクルに努めてきました。2000年代に登場した鉛フリーはんだにより、はんだはそれまでのスズ・鉛の二元素からスズ・銀・銅の三元素の時代に入り、現在ではさらに多元素化が進みました。それに伴い、はんだのリサイクルも多元素に対応した設備が求められるようになり、有害物の発生を極限まで抑制した特殊技術と、独自の精錬方法により高純度のはんだを再生できる、はんだリサイクルシステムを開発しました。昨今、はんだリサイクルの重要度が年々増しており、ここ数年でリサイクル量も倍増し、今後も増え続ける見通しです。

千住金属工業グループでは、鉱物リサイクルがまだ一般的な時代から、材料メーカーとしてステークホルダーの期待に応えるべく「つくる責任」を果たしてきました。これからも、限りある鉱物資源の有効活用・大気汚染抑制といったサステナブルな社会の実現のため、使用済みとなった自社はんだ製品を自ら回収しリサイクルするシステムのさらなる発展と、さらに多元素化していくはんだのリサイクル実現に向け、積極的に人的資源や技術への投資を推進していきます。



## ■ 廃棄物排出量削減の取り組み

千住金属工業グループでは、2013年から廃棄物排出量削減の取り組みとして、はんだリサイクルやプラスチック副資材の回収、軸受製品のスクラップ再生などを実施しています。現在、廃棄物におけるリサイクル率99%を達成しています。

国内拠点 総廃棄物量とリサイクル率の推移



国内拠点 廃棄物の内訳



## ■ 海外拠点データと取り組み

千住金属工業グループの海外拠点においては、国内拠点と同様、環境に関する重点テーマ4項目(温室効果ガス削減、廃棄物削減、有害性化学物質の削減、自然保護活動)に基づいた環境活動を推進しており、製品容器や梱包材の回収とリサイクル、製造設備の稼働管理による電力使用量削減などを行っています。各海外拠点と年1回ミーティングを行い、年度計画および取り組みを把握し、各地域や状況に応じた環境保全への取り組みを促進しています。

海外拠点 総廃棄物量とリサイクル率



## 有害性化学物質の削減

### 基本的な考え方

人の健康や環境の保護など安心して安全な社会生活を実現していくため、開発・購買・製造・環境部門は環境マネジメントシステムに基づいた化学物質の管理を行っています。特に、環境負荷の大きな化学物質については、使用量削減や使用禁止など、計画に沿って実行しています。また、削減目標を毎年定め、重点的に取り組んでいます。

## ■ PRTR法指定化学物質の排出・移動量

千住金属工業グループでは、PRTR法に則り、該当物質の取扱量、排出量、移動量の把握に努めています。

PRTR法指定化学物質の排出・移動量の推移



## ■ 土壌・地下水の汚染対策

千住金属工業グループでは、土壌・地下水の汚染対策のため、下記の取り組みを行っています。

また、緊急事態対応訓練や汚染水の流出防止のためのリスク教育などを行い、汚染防止に努めています。

土壌	自主的な成分分析(年1回実施)
水質・地下水	最終排水口と地下水の点検(残留塩素、pH など、毎日実施) 排水と地下水の成分分析・測定(毎月実施)
雨水	自主的な成分分析(年2回実施)



# お客様とともに

## 製品の品質・安全確保

### 基本的な考え方

千住金属工業グループは、「品質・安全性方針」を定め、お客様に安心して製品をお使いいただくために、製品のライフサイクルを通じて品質の向上に取り組んでいます。

### 品質・安全性方針

- 1 関連法規制及び顧客要求を遵守し、品質や安全性に配慮した製品・サービスの供給を通して顧客満足の上昇を図ります。
- 2 定められた品質マニュアルに従って、品質マネジメントシステムを構築し、実施し、維持するとともに、その有効性を継続的に改善します。
- 3 品質方針・品質目標を定めて活動するとともに、定期的にまた必要に応じてレビューし、マネジメントシステムの改善の機会(間隔、頻度、場面)についての評価も行います。
- 4 品質マネジメントシステムの変更の必要性も評価し、変更が必要な場合は、経営の理念に照らして適切性を維持するためにレビューします。

## ■ 品質マネジメントシステム認証取得

千住金属工業グループ(国内・海外)の製造21拠点において、国際規格であるISO9001を取得しています。また、自動車産業の品質マネジメントシステムであるIATF16949認証では、国内・海外の計17拠点で取得しています。

## ■ 品質向上への取り組み

千住金属工業グループでは、納入・工程・受入における不具合をなくすために、年間の品質活動計画を策定し、各部門が目標を立て不具合の削減に取り組んでいます。不具合が発生した場合は再発防止対策をまとめ、分析結果を次年度の改善計画に落とし込み、継続的にPDCAサイクルを回すことで品質改善を行っています。グループ全体の品質レベル向上を目的に、優れた成果をあげた海外工場へ品質優秀表彰を行っています。

## ■ 製品含有化学物質管理

人の健康や環境の保護などを目的とした欧州の化学品規制法であるRoHS指令とREACH規則に対応するため、環境マネジメントシステムに基づいた化学物質の管理を行っています。専任者によるチーム体制を敷き、当社製品に関する化学物質調査の対応をしています。

REACH規則においては、取り扱う化学物質の本登録を完了しており、購買先様からのSDSを入手し、第31条および第32条に基づきお客様へ情報を伝達しています。また、GHS「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」に適合した、SDS・GHSラベルをお客様に提供しています。

## ■ 品質監査

千住金属工業グループでは、グループ会社を含む国内製造拠点と営業拠点において、IATF16949認証のための内部品質監査を、はんだ部門と軸受部門で年2回行っています。また、国内と海外のすべての製造拠点を対象に、定期品質監査を年1回行っています。また、COVID-19禍における対策としてWeb監査用カメラを活用したリモート監査を実施しました。

## ■ 品質不正の防止

千住金属工業グループでは品質不正防止のため、1972年に関連会社である産業分析センターを設立し、一般的に内部で行われている検査・分析工程を第三者機関である産業分析センターが行っています。その分析結果をもとに合否判定することにより、検査工程における不正や偽装を防いでいます。

## ■ CS向上への取り組み

千住金属工業グループでは、CS(顧客満足度)向上に努めています。お客様への提案や共同開発、技術セミナーや技術交流会、営業活動や技術革新の向上に励んでいます。それらを評価いただき、2021年度は下記の賞と認定をいただきました。



Intel EPIC Outstanding Supplier Award



日立建機株式会社 A級工場認定



日産自動車株式会社 優良品質感謝状

# 購買先様とともに



## 調達活動

### 基本的な考え方

千住金属工業グループは、調達に関する法令と経済産業省の自動車産業適正取引ガイドラインを遵守し、購買方針としての基本姿勢（購買先様に対して礼儀を重んじ、公平かつ誠実な調達を行う）と、購買先様との調達におけるCSR調達方針を定めています。

また、購買先様に求める基本姿勢として、IATF16949・ISO9001・ISO14001要求事項とRBAが規定するサプライチェーン・アセスメントのガイドラインを参考に、法令・社会規範の遵守や緊急事態発生時の事業継続と復旧計画の推進など14項目をお願いしています。

調達を通じた社会への貢献と、購買先様との良い関係を築くため、今後も調達コンプライアンスを遵守し、安心で安全なサプライチェーンの確立に取り組んでいきます。

## CSR調達方針

- 1 千住金属工業株式会社「品質・安全性方針」
- 2 千住金属工業株式会社「環境方針」
- 3 千住金属工業株式会社「購買方針」
- 4 千住金属工業株式会社「購買先様に求める基本姿勢」
- 5 納入品に対して配慮いただきたいIATF16949の要求事項
- 6 納入品に対して配慮いただきたい環境管理上の要望事項

## 購買先様に求める基本姿勢

- 1 法令・社会規範の遵守
- 2 人権・労働への配慮
- 3 安全衛生への配慮
- 4 贈収賄の禁止と公正取引
- 5 健全な事業経営
- 6 品質・納期・安定供給の提供
- 7 非常事態への備えと事業継続
- 8 環境への配慮
- 9 責任ある鉱物調達の推進
- 10 VE（Value Engineering）活動の重視
- 11 情報提供の重視
- 12 情報セキュリティ
- 13 反社会的勢力との関係排除
- 14 社会貢献

## CSR調達への取り組み

千住金属工業グループでは、調達部門および関連のある開発・製造部門が、年間計画に従い国内外の購買先様への監査を実施しています。2021年度も、国内外の購買先様にサプライチェーン・アセスメントのご協力をいただき、問題のないことを確認しています。

また、COVID-19の影響下においても、購買先様とWebでのミーティングを行い、コミュニケーションに努めています。



## 責任ある鉱物調達への取り組み

2011年1月にRBA (Responsible Business Alliance) に加盟し、電子業界のお客様と密接な関係を構築してまいりました。2014年からはRMI (Responsible Minerals Initiative) 会員として、製錬所に対しRMAP (Responsible Minerals Assurance Process) の受審と第三者認証取得を積極的に働きかけ、2015年2月に調達先の製錬所がすべてRMAP認定されています。

今後はこれまでの紛争鉱物から、より広範囲なリスクに対応した「責任ある鉱物調達」のため、引き続きすべての調達先製錬所にRMAP認定の更新を呼びかけ、千住金属工業の製品の安心で安全なサプライチェーンの持続を目指していきます。



# 従業員とともに



## 人材に対する考え方

### 基本的な考え方

千住金属工業グループでは、従業員は重要な財産であると考え、従業員一人ひとりの人権と個性を尊重するとともに、多様な人材が成長し活躍できる職場環境の整備に努めています。

## 人権の尊重

### 人権・労働に関する基本方針

千住金属工業グループでは、CSR基本方針およびCSR実践目標において、人権と労働に関する方針と目標を定め、経営の理念にある「実力・誠実・闘魂」を抱き、生き生きと働ける環境づくりに取り組んでおります。

また、ハラスメントは絶対にあってはならないという考えのもと、「ハラスメント防止教育」を行い、従業員に啓蒙しています。

### 公正な評価と自己申告制度

千住金属工業では、能力開発のための適切な指導と人材育成への活用のため、人事考課を年2回行い、社員の勤務成績および能力を公平・公正に評価し、昇格・昇給・賞与に反映しています。また、職場環境の改善を目的とした自己申告制度を設け、社員一人ひとりに仕事や職場環境について、どう考えどのよう望んでいるのか年1回アンケートを行い、社員がより一層活躍できるよう改善に取り組んでいます。

## 人材育成

千住金属工業グループでは、全従業員が絶えず新しい知識の修得に努め、広い視野を持って合理的な判断ができる人を養成することを目指しています。教育実施規定に基づき効果的なやり方を検討し、階層に応じた教育や全従業員を対象とした教育を実施しています。



はんだ付け技能検定

また、2020年度よりはんだ付けの品質・技能向上を目的とした「はんだ付け技能検定」を実施しています。社内はもとより将来的にはお客様向けにはんだ付けスクールを開催するなどの発展を目指し、千住金属工業グループの新しい文化として根づくよう今後も取り組んでいきます。

### 教育支援制度

千住金属工業では、社員が大学や大学院に進学し、より高度かつ先端の知識や技術を習得することを目的とする、奨学資金支給制度を設けています。また、社員が自発的に自己研鑽に励み、より高度な技能や知識を習得することを支援するため、「特殊技能取得に関する助成」を行っています。

	階層別研修		職能別教育訓練	テーマ別・自己啓発	実地研修
	集合研修	通信教育			
上級管理者	マネージャー研修 (上級編)	考課者訓練 (新任)	実力管理者コース (新任)	はんだ付け技能検定	OJT
中級管理者	マネージャー研修 (初級編)				
初級管理者		実力管理者基礎コース (新任)	営業マン研修 上級編	6ラウンド 英会話 海外拠点技術員研修	OJT
中堅社員	中堅社員研修	中堅社員上級編 中堅社員初級編	営業マン研修 初級編 営業技術職研修		
新入社員	新入社員フォローアップ研修 新入社員研修	新入社員向け通信教育			

## 労働安全衛生

### 基本的な考え方

千住金属工業グループは、安全衛生活動の充実を図り、労働災害を未然に防止するために必要な基本的事項を明確にし、従業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的とする安全衛生管理規定と安全衛生方針を定めています。

### 安全衛生方針

- 1 我々は労働基準法、労働安全衛生法に基づき安全衛生活動の充実を図り、快適な職場環境の形成を促進します。
- 2 会社は安全衛生管理体制を確立し、労働災害を未然に防止するために、必要な措置を組織・職制を通じて積極的に推進します。
- 3 社員は法令及び会社が定める規則を遵守し、労働災害防止と健康保持増進に努めます。

### 労働安全衛生マネジメント

法令に基づき、各拠点で規模に応じた安全衛生管理体制を敷き、年間活動計画書を作成し活動目標と重点活動項目を定めて、計画書に従い安全衛生活動を行っています。

### 労働災害発生状況

当社の労働災害発生率(災害度数率)は、2021年度において全国の製造業や業界平均を下回る水準を維持しています。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
災害度数率	0.47	0.49	0	0	0

※労働災害度数率：休業(休業1日以上又は身体の一部若しくはその機能を失う労働災害による死傷者)労働災害件数/延べ実労働時間×1,000,000

## 健康維持

千住金属工業では、法令に基づく健康診断および相談窓口設置等の他、社員の私傷病の治療に関する負担を軽減するため、会社負担によるがん保険への加入や一カ月間に医療機関で発生した医療費の一部を会社が負担する制度を設け、社員の自己負担を軽減しています。

各種制度	頻度・期間	内容
健康管理	一般健康診断	1回/年 従業員に対し一般健康診断または生活習慣病健診を実施 また、希望者には生活習慣改善を促す指導を実施
	生活習慣病健診	2回/年
	特殊健康診断	2回/年 法令で定める有害な業務に従事する従業員に対し、特別の項目について健康診断を実施
	ストレスチェック	1回/年 アンケートを実施し、個々にメンタルヘルスケアへの気づきやアドバイスを提供
福利厚生	がん保険制度	がん保険に社員を加入させ保険料を会社が負担することで、社員の不慮のがん罹患による負担を軽減
	医療費会社負担制度	都度 社員の私傷病の治療に要する医療費の一部を会社が負担
その他	相談室設置	随時 産業カウンセラーによる職場や仕事に関する悩み相談の実施

### 安全教育

安全衛生に関する知識と技能の習得のため、従業員に以下の教育を随時行っています。

- ・雇入れ時教育訓練
- ・作業内容変更時教育訓練
- ・危険・有害業務従事者特別教育訓練
- ・職長教育訓練(職長教育訓練から5年経過した従業員を対象にしたリフレッシュ教育を含む)
- ・その他監督者安全衛生教育訓練
- ・危険・有害業務従事者に対する安全衛生水準向上のための安全衛生教育訓練
- ・有資格者への教育訓練(フォークリフト運転者等)

### 職場に応じたサポート

製造工場では、夏場の熱中症予防として塩分補給食品の配布や健康対策として牛乳を配布するなど、従業員が健康・安全に働けるようサポートしています。

## 働きやすい職場づくり

### 基本的な考え方

千住金属工業グループは、仕事と生活の両立のための支援や従業員相互の親睦および福祉の向上のための活動組織の運営など、従業員が生き生きと活躍できる職場環境づくりに取り組んでいます。また、勤怠管理システムによる労働時間と在社時間の把握による長時間労働の抑制・指導など、従業員が安心して働けるためのさまざまな対策・改善を行っています。

### 仕事と家庭の両立支援

千住金属工業グループでは、従業員が仕事と家庭を両立し、安心して仕事ができるよう、育児・介護休業法に基づいた育児休暇制度と介護休暇制度を設けています。また、当社は従業員の申し出による所定労働時間短縮の措置を講じています。実際に小さなお子様を持つ従業員の多くが利用し、子育てとキャリアを両立しています。

### 従業員相互の親睦および福祉の向上

従業員相互の親睦を図ることを目的として、「千友会」による班活動・レクリエーションを行っています。また、従業員を代表して職場環境改善や就業上の安全確保等を推進する「労務委員

会」を設け、働きやすい安全な職場の実現と会社の発展に寄与すべく活動しています。



鬼怒ヶ丘工場敷地内で行われた、千友会たけのこ狩り体験イベント



草加事業所フラワーアレンジメント班の活動

## ダイバーシティ

### 基本的な考え方

千住金属工業グループでは、人種、性別、経歴、年齢、価値観、家族構成、生き方など、さまざまな「違い」を尊重し、積極的に生かすことで、変化し続けるビジネス環境や多様化する顧客ニーズに効果的に対応しています。また、従業員一人ひとりの可能性を信じ、能力が発揮できるよう、「幸せを感じ、より長く、安心して働ける、働きがいのある職場を実現する」ことを目的に、ダイバーシティに取り組んでいます。

### 女性の活躍推進

千住金属工業では、女性活躍推進法に基づき一般事業主行動計画を策定し、女性の活躍推進に取り組んでいます。

### 研修・セミナーの実施

ニーズや状況等に応じた研修やセミナーを随時実施し、従業員の意欲向上を図っています。

### 障がい者の雇用

千住金属工業グループでは、従来より障がい者雇用に取り組んでおり、障がいのある方が安心して生き生きと働けるよう職場環境を整備しています。

### 「ダイバーシティ勉強会」の実施

ダイバーシティ勉強会では、毎年、ニーズや状況等に応じた研修やセミナーを随時実施し、従業員の意欲向上を目的に毎回「従業員同士の違い」に焦点を当てたテーマを定め、参加者自らの経験や状況を話し合い、自分の考えやアドバイス、工夫を述べた

りしながら「気づき」を得ています。また、従業員同士、従業員と会社の相互理解を深め、より働きやすい環境を整える機会の場としています。

2021年度は計7回の勉強会を実施し、毎年定例メニューとしている新入社員のモチベーションに対する勉強会、海外出向を経験したメンバーによる「グローバルビジネスや海外趣向のあり方」について、「若手開発メンバーによる研究開発業務への向き合い方」、「50歳からのライフプラン」というさまざまなテーマを掲げ、積極的な意見交換が行われました。



# 従業員とともに



## 従業員データ

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
<b>従業員数</b>					
国内	1,694人	1,731人	1,747人	1,761人	1,626人
海外	643人	627人	631人	596人	622人
計 ※()内は女性比率	2,337人 (35.0%)	2,358人 (36.0%)	2,378人 (36.8%)	2,357人 (37.5%)	2,248人 (36.3%)
<b>正社員</b>					
男性	—	1,233人	1,242人	1,201人	1,271人
女性	—	569人	533人	530人	619人
<b>契約社員</b>					
国内	—	518人	488人	468人	312人
海外	—	38人	115人	158人	46人
計 ※()内は女性比率	—	556人 (50.2%)	603人 (56.6%)	626人 (56.4%)	358人 (54.7%)
<b>管理職(国内)</b>					
男性	100人	105人	116人	119人	167人
女性	5人	6人	7人	9人	17人
女性管理職者比率	4.76%	5.41%	5.69%	7%	8%
<b>管理職(海外)</b>					
男性	—	—	74人	47人	55人
女性	—	—	42人	38人	42人
女性管理職者比率	—	—	36.21%	44.7%	43.3%
<b>採用状況</b>					
男性	44人	79人	47人	23人	60人
女性	16人	23人	18人	19人	25人
計	60人	102人	65人	42人	85人
離職率(入社3年後)	10.0%	15.6%	16.9%	17.59%	13.5%
<b>各種休暇制度</b>					
平均有給休暇取得日数/年(日)	7.4日	9.8日	8.5日	9.08日	11.1日
有給休暇取得率	59.41%	62.63%	62.49%	58.2%	56.85%
育児休暇取得者数	8人	12人	10人	22人	14人
育児休暇復帰率	100%	91.70%	100%	100%	93%
介護休暇取得者数	3人	1人	0人	1人	1人
介護休暇復帰率	33%	100%	100%	100%	100%
<b>労働時間</b>					
平均所定外労働時間/月(h)	13.7時間	15.6時間	14.4時間	9.03時間	11.5時間
<b>障がい者雇用</b>					
障がい者雇用人数	18人	17人	16人	16人	17人
障がい者雇用率 ※()内は法定雇用率	2.2% (2.0%)	2.2% (2.2%)	2.1% (2.2%)	2.02% (2.3%)	2.2% (2.3%)

# 社会貢献活動



## 文化・教育・地域交流

### 都内市立中学校 技術科授業へのはんだ材料提供

本社 | 2021



### 千葉県内科学館 銅鏡鑄造・研磨体験へのはんだ材料提供

本社 | 2021-2022



### 興玉神社の清掃

関西事業所 | 2021.5.21 / 2021.9.23 | 56名



### 大型火災の被災者への支援

SENJU SOLDER (PHILS.) INC. | 2022.3.14



## 喫茶「妙好」



足立区障害者団体連合友愛会<sup>※</sup>では、東京都足立区内のさまざまな施設で喫茶業務や売店業務を行い、日々障がい者の方々に働く場を提供しています。

千住金属工業本社社屋の一角にある喫茶「妙好」もその中の1つで、足立区内の障がい者福祉施設に所属する知的障がいのある方々を受け入れ、仕事を通し、社会とのつながりを持つ機会を提供しています。

妙好での仕事を通し、一人で公共交通機関を使い移動する機会を増やし、電話連絡、喫茶業務、パンの販売など一つひとつ細かい作業をこなすことでその積極性・自主性を養い、より高い社会性が身につくようにサポートしています。

千住金属工業でもその活動に賛同し、本社ビルが現在の社屋に建て替わった2005年以降、喫茶スペースの提供、光熱費の負担、社内打ち合わせ時のドリンク注文などを通じて、その活動への援助を行っています。



※東京都足立区で視力障がい、聴覚障がい、手足の障がい、知的障がい、事故・病気等による中途障がいのある方とそのご家族の団体が集まり、お互いの障がいへの理解、親睦と働く場の提供を目的に約40年前に作られた団体

**文化・教育・地域交流**

**児童養護施設への寄付**

SENJU (MALAYSIA) SDN. BHD. | 2022.4.1



**貧困家庭への寄付**

千住金属（惠州）有限公司 | 2022.1.20



**貧困地域の子どもたちへの図書の寄付**

千住金属（上海）有限公司 | 2021.12.28



**女性支援団体への寄付**

台湾千住電子股份有限公司 | 2021.10.26



**石洞美術館**



千住金属工業本社ビル内にある石洞美術館は、美術工芸を通じた国際間の文化交流、相互理解の促進、我が国の文化の向上を図るため、2006年4月に公益財団法人美術工芸振興佐藤基金によって設立されました。所蔵品は、故佐藤千壽名誉会長の収集したコレクションを核としており、美術館の名称は佐藤の雅号「石洞」から採っています。

COVID-19禍の長期休館を経て、2022年5月「第50回記念 伝統工芸日本金工展」より再開し、現在「朝鮮のやきもの」(2022年11月27日まで)が開催されています。今後の展示会は、「古染付展(仮称)」(2023年1月15日～3月31日)を予定しています。



**自然環境保全**

**荒川水辺サポーター**

本社 | 2021.11.6 | 7名



**里山保全ボランティア**

関西事業所 | 2021.7.4 / 2021.10.24 | 17名



**ガードレール清掃**

千住電子工業 | 2021.6.19 | 74名



**ビーチクリーン活動**

台湾千住電子股份有限公司 | 2021.4.30 | 22名



**もおか環境パートナーシップ会議**

栃木事業所 | 4回/年間 | 40名



**砂鉄川へのヤマメ稚魚の放流**

千住電子工業 | 2021.10.2 | 7名



**八重津浜清掃活動**

千住システムテクノロジー | 2021.7.22 | 7名



**森林保護区での清掃活動**

SENJU COMTEK CORP. / SENJU AMERICA INC. | 2021.9.18 | 8名



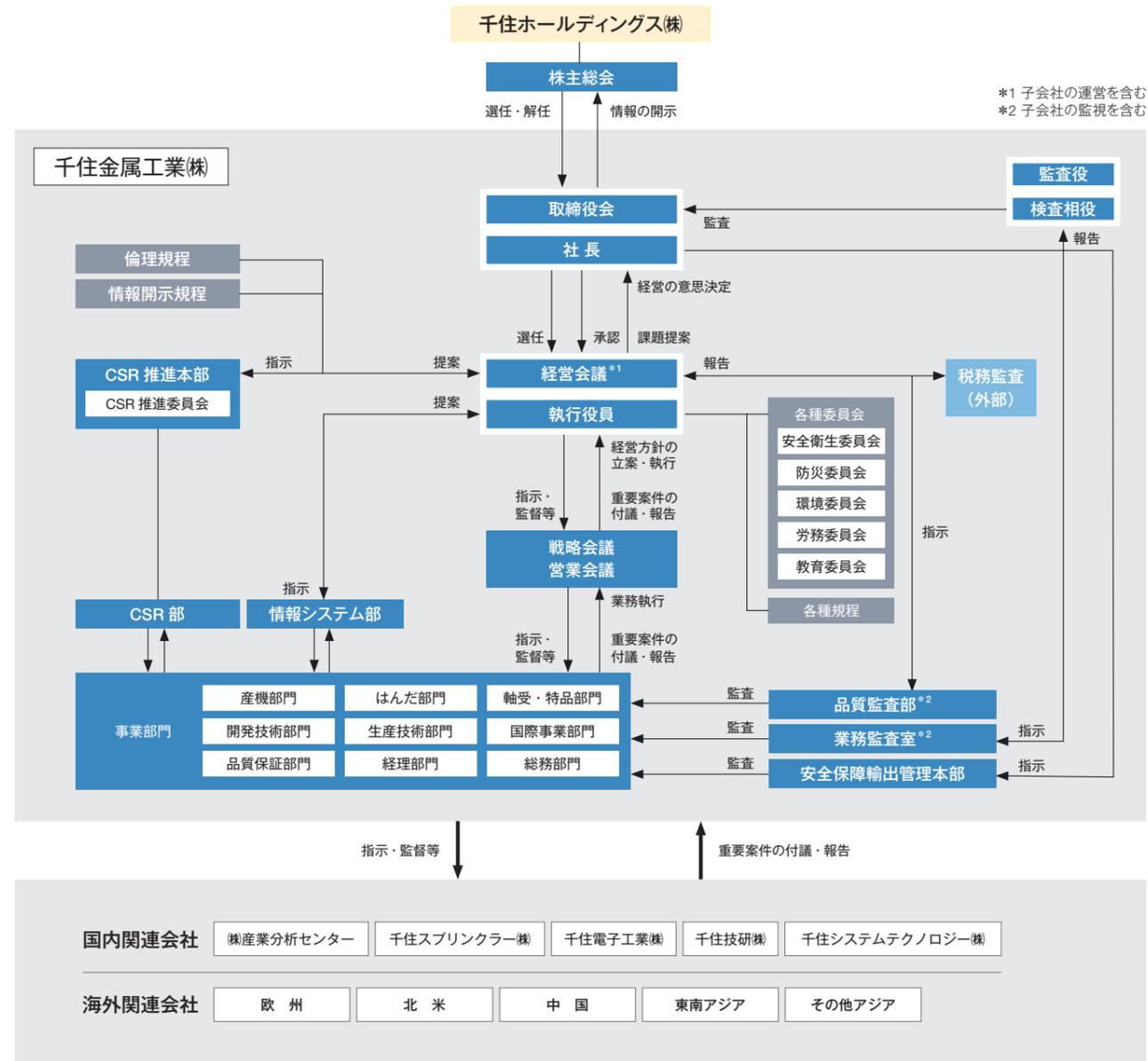
## コーポレートガバナンス

### 基本方針

千住金属工業グループは、健全かつ公正で透明性の高い経営を維持し、時代の変化に合わせてながら経営体制を整備・運用し、企業統治体制を構築していきます。  
また、すべてのステークホルダーに対して公平性を持って情報を開示することにより説明責任を果たすことを基本方針としています。

## コーポレートガバナンス体制

法令に基づく株主総会・取締役会に加え、監査役・検査相役や税務監査の配置とCSR推進本部・経営会議・戦略会議の整備などにより、ガバナンスの強化に努めています。



## 役員一覧



- 代表取締役社長 ① 鈴木 良一
- 代表取締役常務 ② 長谷川 友秀
- 常務取締役 ③ 川又 勇司
- 取締役 ④ 佐藤 有香 ⑤ 奥野 哲也
- 監査役 ※社外役員 ⑥ 佐藤 昭壽
- 検査相役 ⑦ 坂口 和年
- 理事 ⑧ 大竹 基之 ⑨ 石井 泰博 ⑩ 田中 節夫
- 副理事 ⑪ 角屋敷 敏丸 ⑫ 秋田 智

## 取締役会と業務執行体制

### 取締役会

取締役5名と監査役1名、検査相役1名で構成され、関係法令および定款の定めるところに従い、千住金属工業経営管理の最高最終の意思決定機関として、執行役員の任免と経営会議からの上程の決議を行います。取締役会の審議・決定の指標として、別途倫理規程、情報開示規程を定めています。

### 経営会議

取締役、執行役員等により構成され、法定事項を審議するとともに、会社業務執行上の重要な事項を決定もしくは承認します。また、取締役会が審議決定すべき業務執行に関する事項については取締役会に上程します。経営会議の審議・決定の指標として、別途各種規程、BCP管理規程、危機管理規程、情報セキュリティ規程を定めています。

### 執行役員制

執行役員制を導入しており、取締役会により選任された執行役員部門長が、所轄する部の分掌を統轄し管理を行っています。会社の事業計画に基づき所轄する部の事業計画を立案し、実行しています。また、担当役員として所轄する部の指導に当たり、重要事項を直接指揮しています。

## 監査監督体制

### 監査役・検査相役

監査役1名と検査相役1名を選任しています。取締役の職務の執行を含む日常の経営活動の監査を行っています。監査役と検査相役は、取締役会に出席し、違法または著しく不当な決議がなされることを防止する責務を果たすとともに法令に準拠した活動を行っています。

## 取締役・監査役・執行役員の紹介

	氏名	執行役員	取締役会	経営会議
代表取締役社長	鈴木 良一		○	○
代表取締役常務	長谷川 友秀	○	○	○
常務取締役	川又 勇司	○	○	○
取締役	佐藤 有香	○	○	○
取締役	奥野 哲也	○	○	○
監査役(社外)	佐藤 昭壽		○	
検査相役	坂口 和年		○	○
理事	大竹 基之	○		○
理事	石井 泰博	○		○
理事	田中 節夫	○		○
副理事	角屋敷 敏丸	○		○
副理事	秋田 智			○

## リスクマネジメント

### 考え方、 リスクマネジメント 活動

千住金属工業グループは、サプライチェーンの上流に位置する企業の責任として、下記のリスクを想定し、各リスクに対処するための専門部署・委員会を設置し、リスクに対する未然防止および損失を最小限に抑える対策を実施しています。

### 想定されるリスク

- 地震や台風などの自然災害リスク
- 情報漏洩や不正アクセスなどの情報セキュリティリスク
- 特許侵害や技術流出などの知的財産リスク
- ハラスメントなどの人権・労働に関するリスク
- 新型インフルエンザや COVID-19 などの感染症リスク
- 安全保障貿易などの輸出管理リスク
- 気候変動問題や廃棄物による汚染などの環境リスク

## 事業継続への取り組み

各種リスクの評価・分析・対策を行い、被害を最小限にとどめ、事業の継続能力を高めるためのリスクマネジメントの構築と、生産体制の早期復旧を図るための推進体制、「設備等災害復旧実施計画書」などの行動計画を定めています。

また、災害などの緊急事態により生産困難な拠点があつた場合、国内海外の他拠点と連携して生産が継続できるようバックアップ体制の強化を行っています。

### 防災訓練の定期実施

千住金属工業グループでは、地震や火災などの災害から従業員の生命を守るため、消防署や警備会社の指導のもと、避難訓練・消火訓練・救命講習(AED講習)を毎年実施しています。

また、管轄消防署が実施している総合防災訓練にも参加し、地域社会との連携強化に努めています。



避難訓練

## 企業秘密管理・個人情報保護

千住金属工業グループは、「企業秘密管理規定」「個人情報保護規定」を定め、会社が保有する個人情報や、お客様・取引先様の情報などを管理し、機密情報の漏洩防止に努めています。

また、GDPR(EU一般データ保護規則)などの法規に関しても適切な対応を行っています。

### 安定供給のための生産バックアップ体制



## 情報セキュリティ

近年発生しているサイバー攻撃による被害に鑑み、情報セキュリティの管理運用を一層強化しています。情報システム部門は基本的な行動計画を策定し、被害が発生した際の封じ込めや、迅速な復旧ができるように、脅威を検知する能力を向上させ、確実なバックアップの取得を行っています。サイバー攻撃の手法は日々変化していますが、従業員にルールや脅威に対する教育を定期的に行い、情報セキュリティの重要性を啓蒙しています。

## 安全保障輸出管理

千住金属工業グループは、対外取引の発展と国際社会の平和・安全の維持を目的とした法律である外国為替及び外国貿易法(外為法)などの法令を遵守し、大量破壊兵器などの不拡散、通常兵器の過度の蓄積防止、各国間の貿易摩擦などの問題に対し、輸出に関して管理を行うことにより秩序を保っています。適

切な輸出管理を実施するために、安全保障輸出管理の最高責任者に代表取締役社長を置き、その直下に安全保障輸出管理本部を設置し、輸出管理体制の整備と充実を図っています。また、2020年度よりCOVID-19禍における対策としてセルフチェックによる各部署への監査を実施しています。

### 該非判定

開発部門が外為法等輸出管理関連法で規制されている貨物のリスト(輸出規制リスト)と照合して判定

### 取引審査

営業部門がその輸出貨物について、用途と需要者(エンドユーザー)を確認

### 出荷管理

物流から出荷する際に、該非判定と取引審査が完了していることと、その完了した貨物と出荷貨物が同一であることを確認し、ドキュメントに記録

規程類や教育実施に関する届出や、内部監査を年1回実施することで、規程遵守を維持しており、経済産業省より安全保障貿易管理に係る自主管理体制を整備している企業として認知されています。\*

※経産省による「輸出管理内部規程(CP)を作成し実施している企業名の公表」より  
[https://www.meti.go.jp/policy/anpo/compliance\\_programs\\_pdf/20220810\\_kouhyougenkou.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/anpo/compliance_programs_pdf/20220810_kouhyougenkou.pdf)  
 (制作時点における最新版)

## 知的財産

千住金属工業グループでは、開発・製造部門から日々生み出される製品・技術に関して知的財産権制度を有効活用することにより、適切な権利化・秘匿化を行っています。また、他者の知的財産権を尊重しながら独自の技術開発に力を入れています。

これらの知的財産活動を通じて当社の事業活動を支え、持続可能な社会へのさらなる貢献を志しています。



### 知的財産教育

千住金属工業グループでは、主に技術開発部門を対象に、定期的に勉強会を開催し、特許取得方法、ノウハウ管理、特許検索などを中心とした実践的な取り組みを行い、製品開発・製造リスクに対する管理向上に努めています。

## 安全保障輸出管理教育

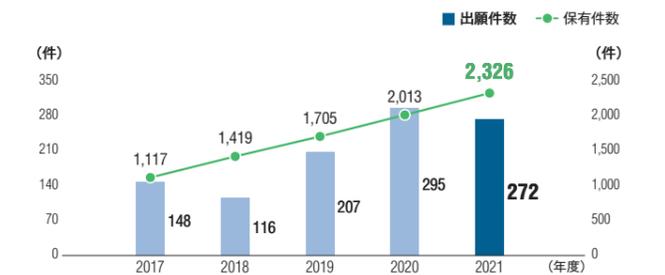
当社では毎年、該非判定や取引審査、出荷管理の担当者向けに、安全保障輸出管理の教育を行っています。(2021年度は46部署に実施)

また、経営陣を対象とした教育や、関連法令を分かりやすく説明した教育資料を作成し、各部署への教育も行っています。

## 特許権等保有状況

SMICブランドの保護、価値向上を目的として知的財産権の取得、維持、管理を行っています。

### 特許出願件数と保有件数



## コンプライアンス

### 基本的な考え方

千住金属工業グループでは、経営の理念をコンプライアンスの要と考え、CSR基本方針に基づいたコンプライアンス基本方針と実践目標を定めています。従業員就業規則にてコンプライアンスの重要性を明文化し、従業員はこれらの方針・目標・規則を誠実に守り、会社の秩序保持に努めています。

また、千住金属工業グループのCSR基本方針およびCSR実践目標において、公正取引・倫理事項を遵守し、運用しています。

## コンプライアンス活動の状況

千住金属工業グループでは、事業活動に関わる各種法令を遵守するため、各種教育（CSR教育、環境教育、購買先様への調達方針教育、安全保障輸出管理教育）と内部監査、サプライヤー監査を実施しています。

内部監査においては、業務監査部門による健全な企業コンプライアンス維持を目的とした、外為法に基づく「安全保障輸出監査」、RBA行動規範に基づく「CSR監査」、社内外の機密情報の取り扱いに関する「情報セキュリティ監査」を国内海外の全拠点に対して実施しています。2020年度よりグループ会社を含む国内拠点においては、COVID-19禍における対策として書面によるリモート監査を実施しています。また、2021年度は本社圏（本社・草加事業所）に限定して対面監査を実施しました。各監査で

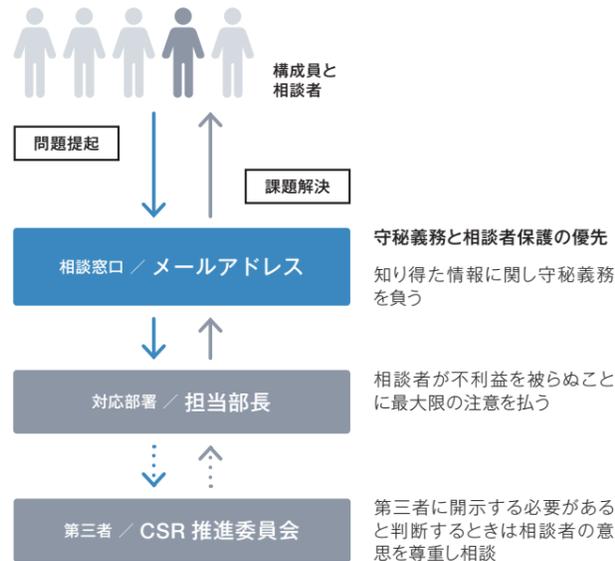
の是正事項は各部署にて速やかに対策を講じ、継続的なマネジメントシステムの改善へとつなげています。

監査対象	業務監査	安全保障輸出	特定荷主
千住金属工業	78	35	18
グループ会社(国内)	28	3	3
グループ会社(海外)	16	0	0
委員会、その他	0	0	0
合計	122	38	21

## 社内通報窓口制度(スマイルメール)の設置

人権に関する問題(ハラスメント等)やコンプライアンスに関する問題(法令や社内規程違反、企業倫理や社会的規範等の問題)に対して、全従業員が匿名で相談・通報できる専用の内部通報窓口(スマイルメール)を設置し、不正行為等の早期発見と是正を図っています。

提案	苦情
要望	意見
相談	情報
いじめ	ハラスメント



## 新拠点紹介

### 中部事業所 瀬戸工場



2021年8月に開設した中部事業所瀬戸工場は、「せともの」で有名な愛知県瀬戸市にあります。車載系のお客様が多い中部・東海地区の市場拡大と、お客様への技術サポート体制強化のため、営業部門である中部主管営業所と研究部門である瀬戸研究所を有しています。また、ショックアブソーバー用ベアリングを製造している軸受製造部も有しています。中部・東海地区のお客様へ、製品の性能評価や試作サンプルの提出、解析サポートを営業部門と研究部門が連携して迅速に行える、営業・製造・研究開発の総合拠点です。



#### 拠点概要

所在地	〒489-0975 愛知県瀬戸市山の田町50-1
電話番号	0561-89-3160
FAX 番号	0561-83-3162
従業員数	29名

### 関西事業所 西脇工場



関西地区の製造拠点増強のため、2019年5月、「織物のまち」として有名な兵庫県西脇市に関西事業所西脇工場、2022年4月に西脇第二工場を開設しました。西脇工場ではソルダペースト、ソルダプリフォーム、フラックスを製造し、SMICの生産力強化とBCPを担っています。

#### 拠点概要

所在地	〒677-0052 兵庫県西脇市和田町257-1
電話番号	0795-38-8888
FAX 番号	0795-38-8700
従業員数	100名(関西事業所中工場含む)

ヨーロッパ  
5カ所  
うち製造拠点  
1カ所

日本  
22カ所  
うち製造拠点  
10カ所

アジア  
17カ所  
うち製造拠点  
11カ所

アメリカ  
8カ所  
うち製造拠点  
3カ所

## 千住金属工業株式会社

### 国内事業所

栃木事業所（栃木県真岡市）  
松山工場／鬼怒ヶ丘工場  
草加事業所（埼玉県草加市）  
中部事業所（愛知県瀬戸市）  
瀬戸工場  
関西事業所（兵庫県西脇市、多可町）  
西脇工場／中工場

### 国内営業拠点

東北主管営業所（宮城県仙台市）  
北上営業所／郡山営業所  
中部主管営業所（愛知県瀬戸市）  
松本営業所／富山営業所  
関西主管営業所（滋賀県草津市）  
姫路営業所／関西特別営業開拓室（兵庫県・中工場内）  
九州主管営業所（福岡県大野城市）

## 会社概要

### 千住金属工業株式会社 / 千住金属工業グループ

SENJU METAL INDUSTRY CO., LTD.

DUNS# 690663091

設立 1938年4月15日

本社所在地 〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地

代表取締役社長 鈴木 良一

### 事業規模

売上高（連結）113,073百万円（2021年4月1日～2022年3月31日）

資本金（単体）400百万円

従業員数（連結）2,248人（2022年3月31日時点）

## 事業内容

- 金属の溶解、合金、鋳造、展伸、加工品の製造・販売
- 金属の粉末および軸受の製造・販売
- はんだ付け用溶剤ならびに接着剤の製造・販売
- はんだ付け装置の製造・販売
- 消火装置部品の製造・販売（関連会社事業）
- 前記に関連する機械設備の製造・販売
- 社内派遣業

## 主要関連会社一覧

### 日本

株式会社産業分析センター  
千住スプリンクラー株式会社  
千住電子工業株式会社  
千住技研株式会社  
千住システムテクノロジー株式会社

### アメリカ

Senju America Inc.  
Senju Comtek Corp.  
Senju Fire Protection Corp.

### ヨーロッパ(ドイツ、チェコ)

Senju Metal Europe GmbH  
Senju Manufacturing Europe s.r.o.

### アジア

Senju (Malaysia) Sdn. Bhd.  
Senju Trading (M) Sdn. Bhd.  
Senju (Thailand) Co., Ltd.  
Senju Solder (Phils.) Inc.  
北京千住電子材料有限公司  
北京千住消防器材有限公司

千住金属（天津）有限公司  
上海千寿企業管理咨询有限公司  
千住金属（上海）有限公司  
千住金属（惠州）有限公司  
千住金属（香港）有限公司  
千住電子材料（香港）有限公司  
台灣千住電子股份有限公司  
日商千住金属工業股份有限公司 高雄分公司  
韓國千住金属株式会社

## 本社



## 国内事業所



栃木事業所 松山工場



栃木事業所 鬼怒ヶ丘工場



草加事業所



中部事業所 瀬戸工場



関西事業所 西脇工場

## 国内関連会社



産業分析センター



千住スプリンクラー



千住電子工業



千住技研



千住システムテクノロジー

## 編集後記

「SMIC CSR REPORT 2022」をお読みいただき、ありがとうございます。

当レポートは、ステークホルダーの皆様へ、千住金属工業グループの事業や取り組みをご理解いただくことを目的として、2012年に創刊し、今号でめでたく10号目を迎えました。これもひとえに皆様のお力添えとご愛顧の賜物と感謝申し上げます。

当社ではここ数年、COVID-19・ウクライナ問題による金属・エネルギーの価格高騰や物流の滞り等の不安材料があるなか、まずはサプライヤーの方々との連携を強めることで、お客様にも引き続き信頼と安心をお届けできるよう努力をしております。そのなかで、今回特集としてサプライチェーンの源流であります鉱物採掘・製錬をされるMinsur様とそれを仲介いただく豊田通商(株)様と三社会談(P9)が実現したことは大きな喜びであります。時差があるなかの会談、また写真提供やページの校正など、各社快く対応くださり感謝申し上げます。

また今号では、「マテリアリティ」(P4)と「SMICグループの目指す姿とCSR」(P5)をより明確に表現することで、当社グループを体系的にご理解いただけるように努めました。これからも2020年に掲げました「環境ビジョン2050」をはじめ、ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みを通じて、持続可能な社会に貢献してまいります。

引き続き、千住金属工業グループへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

千住金属工業グループ  
千住金属工業株式会社 CSR部